



R3年度 発達障害地域支援マネジメント強化事業 実績報告

NPO法人 わくわくの会

発達障害地域支援マネジメント事業

- NPO法人 わくわくの会に委託
- 地域支援マネージャーを配置し、発達障害が疑われる事例や、通常の支援が難しい困難事例等に対応する事業所等支援機関に対し、発達障害に対する理解を深め、困難ケースを含めた支援を的確に実施できるよう助言・指導する
- 困難事例に対応できる支援者の育成を実施し、地域支援体制の整備強化を図る

- 困難事例に対応できる支援者の育成
- 圏域で抱える困難事例に対する支援
- 支援ノウハウの調整、普及、事例の整理等



地域の皆さんと共に発達障害児（者）の方々とそのご家族が安心して生活できる地域作りを目指しています

わくわくの会の具体的な支援内容

- ① 相談：来所・電話・訪問・支援会議・同行
- ② 居場所の提供
- ③ 自己理解を促す講座
(SST、ストレスマネジメント、アンガーマネジメント、就労準備・定着等)
- ④ 余暇支援・イベント
- ⑤ 当事者会
- ⑥ 家族会
- ⑦ 研修（発達障害の理解・サポートノートえいぶる 等）
- ⑧ ペアレントトレーニング、ティーチャーズトレーニング
- ⑨ 資料集の作成
- ⑩ その他

令和3年度相談実績 (R3.4月~R3.12月)

【市町村別利用者数】

市町村	実人数	述べ人数
名護市	2	9
うるま市	2	2
嘉手納	1	2
宜野湾市	3	9
宜野座	1	1
沖縄市	4	27
北中城村	1	1
那覇市	0	0
浦添市	13	40
南風原町	17	33
与那原町	5	31
豊見城市	23	117
糸満市	9	23
南城市	11	28
八重瀬町	4	37
西原町	11	35
石垣市	1	1
不明	1	2
合計	109	398

【圏域別利用者数】

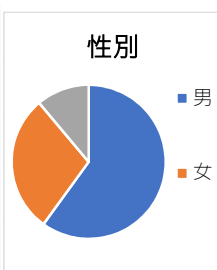
圏域	実人数	述べ人数
北部圏域	2	9
中部圏域	12	42
南部圏域	93	344
八重山圏域	1	1
不明	1	2
合計	109	398

* 那覇市は市単独事業『発達障害者サポート事業』（わくわくの会委託）にて対応しているため、実績は0になっている。

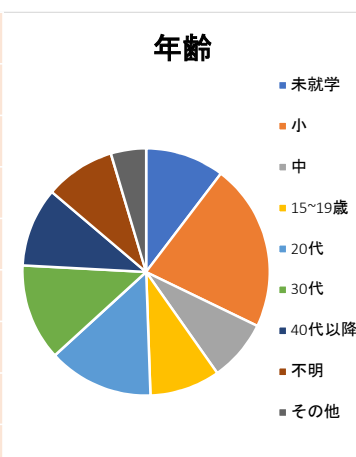
令和3年度相談実績内訳 (R3.4月~R3.12月)

* 実人数：109人（述べ人数：398人）

性別（実数）	
男	70
女	33
その他	6
合計	109



年齢（実数）	
未就学	22
小	15
中	11
15~19歳	9
20代	26
30代	15
40代以降	10
不明	1
合計	109



相談者（実数）	
本人	37
家族	63
相談員	6
支援員	5
教職員	8
その他	19
合計	138

診断（実数）	
有り	65
無し	33
不明	11
合計	109

支援方法（延べ数）	
来所	90
電話	179
訪問	2
メール	1
支援会議	0
その他	0
同行	3
学校・企業	0
研修	0
保護者	15
Pトレ	17
就労前準備	5
就労定着	27
本人	15
居場所	44
合計	398

R3年度の重点的な取り組み

～R2年度の課題から～

- 個々のケースを通じて、他機関・地域の支援者と連携しサポートを行う
- サポートノートえいぶるの普及・啓発
- 福祉サービス事業所、保育園、学童等に対して、各圏域の支援者と協働してティチャーズトレーニングを実施し、地域の支援者の育成を図る
- ペアレント・トレーニング、ティチャーズトレーニングの指導者養成研修を実施し、指導者の育成を図る
- がじゅま～る、各圏域の相談部会等と連携し、各圏域での発達障害児者支援の研修を実施する
- 各圏域、市町村で、当事者・家族が安心して集える居場所ができるよう、圏域の自立支援連絡会・市町村自立支援協議会に働きかけていく
- 資料集の作成

相談での対応

- 想いを傾聴し、不安を軽減、信頼関係の構築
- 十分なアセスメントにより支援の方向性を確認
- 具体的な困りごとに関しては、自己理解を高めて工夫を一緒に考える
- ご本人の困り感や、置かれている環境をアセスメントし、調整を行う
- 他機関（地域の関係機関）との連携、役割分担と地域の支援システムの構築
- 那覇市発達障害サポート事業、沖縄県療育等支援事業、合理的配慮に係る教育支援機器等整備事業と協働し、県全体として発達障害児者や気になる児者への相談を受け、地域の相談員と連携する

相談内容

- ご家族⇒子ども（成人も含む）の特性理解と関わり方についての相談、家族関係の悪化による相談、保育・幼稚園・学校・デイサービス等、日中活動の場の環境調整の相談
- ご本人⇒生きづらさと困りごとをどう軽減していけばいいのか？対応策の相談
- 支援者⇒困難事例となっているご本人やご家族への支援についての相談

居場所

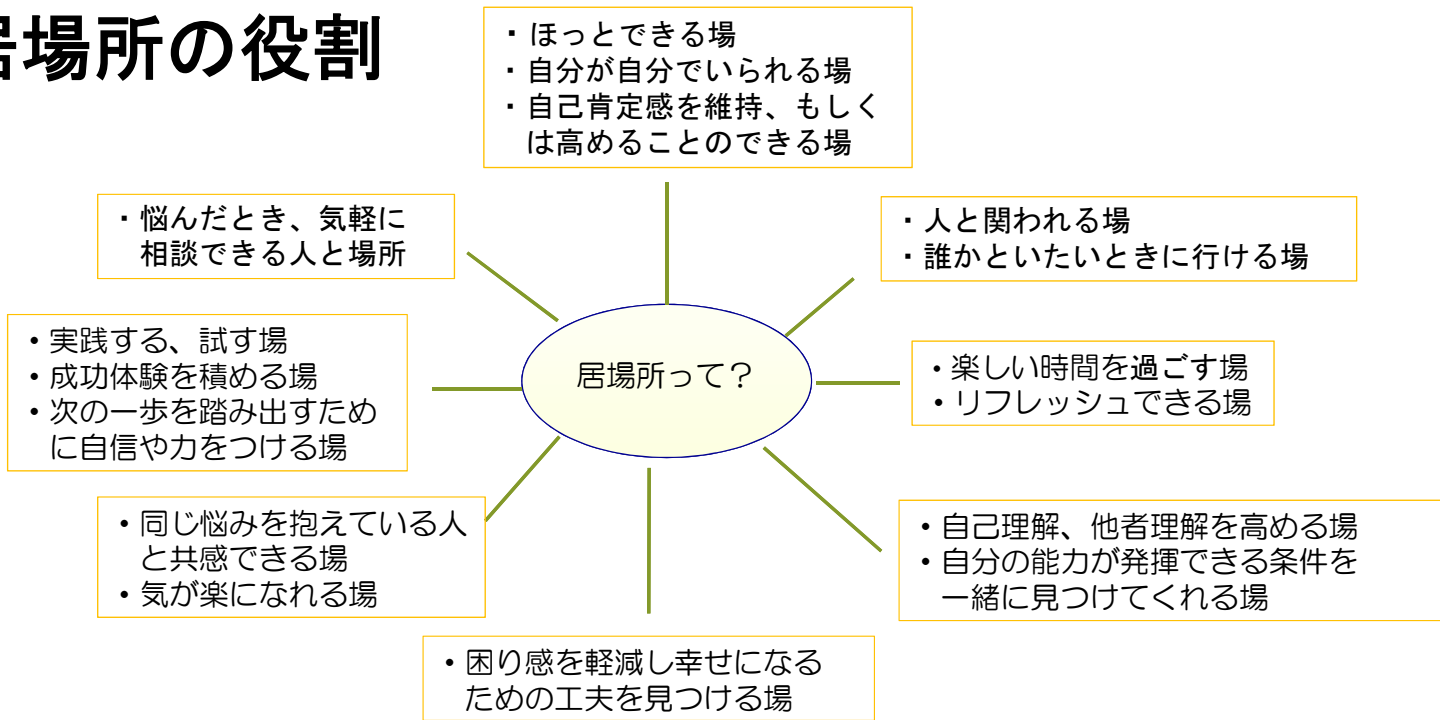
《目的》

- 自宅以外でも安心して過ごせる場
- ゆっくり過ごす場
- 他者と交流する
- リフレッシュ・充電する場
- 生活リズムを整える・維持する
- 体力をつける

など

自信を持ち、次の一步を踏み出せるように支援する

居場所の役割



その人がしあわせになるための環境（ハード面・ソフト面ともに）

「居場所」の効果

- ・ 幼少期から『人と良い信頼関係を築けた』という体験が少ない当事者にとって、居場所で家族以外の他者と安心して過ごし、かかわれたという成功体験を積ねることができた。それが自信に繋がり、自ら次のステップ（仕事やサークルへの参加など）へ踏み出す力になっている
- ・ 「利用者の方の想いに寄り添う」ことで、ニーズを受け止め利用者が求める居場所の役割や目的に対応することができた。

講座・余暇支援・イベントなど

講座：自己理解を高めるための講座（自分を知ろう、実行機能を高めよう、自分の力を発揮して働き続けるために、SSTなど）を実施 **就労講座（一般向け・学生向け）**

余暇支援・イベント：週1回の余暇支援と年数回のイベントをとおして、リフレッシュ、他者交流、SSTの実践の場として実施（外出、スポーツ、ゲーム、忘年会、**遠出ツアー**などの企画、実施、振り返り）

当事者会・家族会（ピアサポート機能）

- 当事者会：フリートーク（毎月1回）女子会（年2～3回）しごと～ク（仕事をしている方の交流会、年2～3回）
「人の意見を評価しない」を基本ルールとして、安心して参加できるようにしている。今年度は目的別の当事者会を実施した。
- 家族会：月1回実施、ゆんたく会やワーク（ストマネなど）、**サポートノートえいぶるの勉強会、グループホーム見学会、体験発表などを開催**

支援の実際及び成果

《吃音の当時者会との連携》

昨年度から吃音をもつ当事者会のメンバーから「啓発のための映画の上映会をしたい」との相談があった。地域の小学校の先生（言語・難聴学級の担当）や言語聴覚士に声をかけ試写会を実施。今後の地域での啓発について話し合いができた。

新規で「吃音を治したい」という学生の相談を受けた。吃音があることで自己肯定感が低下していた。言友会のメンバーとのゆんたく会を実施して、メンバーの体験や考え方（生き方）を聞いたことで、「楽になった、自分のありまのままを受け止めることができた」との感想があった。

研修・ペアレントトレーニング（Pトレ） ティーチャーズトレーニング（Tトレ）

地マネ事業だけではなく、那覇市発達障害サポート事業や、沖縄県療育等支援事業・合理的配慮に係る教育支援機器等整備事業などと連携し、研修・ペアレントトレーニング（Pトレ）・ティーチャーズトレーニング（Tトレ）を実施し、地域の発達障害児者や気になる児者にかかわっている支援者の育成を進めている

3月には、Pトレ・Tトレの指導者養成講座：R4年3月に企画（オンライン）各圏域ごと実践できる人を推薦してもらい、どの地域でもPトレ・Tトレが受けられるよう人材育成したい

各市町村との連携

- 個別のケースを通じて、市町村の委託支援事業所と連携し支援を実施し、支援者の育成を図る
- 支援を通して見えてきた課題を、地域の支援者と共に支援体制を考えている
- 市町村や圏域・県の自立支援協議会に参加し、それぞれの課題を共有
- チラシを作成・配布し、本事業の目的や内容を多くの支援者に知ってもらい、活用できるようにした

R3年度の取り組み

- 個々のケースを通じて、他機関・地域の支援者と連携し、人材育成に努めた
- サポートノートえいぶるの普及・啓発のための家族や支援機関に研修等行った
- 福祉サービス事業所、保育園、学童等に対して、各圏域の支援者と協働してティチャーズトレーニングを実施し、地域の支援者の育成を図った
(南城市・南風原町・豊見城市＝保育士対象にTトレ実施、今後県学童連盟と連携予定)
- ペアレント・トレーニング、ティチャーズトレーニングの指導者養成研修を実施する予定
(R4.3月5～6日)
- がじゅま～ると連携し、発達障害についての理解の普及啓発に向け、研修内容を検討した
- 各圏域、市町村で、当事者・家族が安心して集える居場所ができるよう、市町村の計画相談、基幹相談に働きかけた
- 資料集の作成

課 題

- 各分野の支援者の人材育成：不適切なかかわりで、二次障害につながっているケースがある（克服するという考え方）、本人支援（発達支援）・家族支援・地域支援の視点が不足している
 - 地域の支援システムの構築について：各圏域の人材育成（支援者のスキルアップ）のための具体的な取り組み方（手法）の検討が必要
 - 市町村により、発達障害児者の支援について差がある⇒どこに住んでいても、同じように支援を受けられるような体制の構築（支援者の育成）
 - ペアトレやTトレの普及
-